

学校運営協議会 議事録

校名	府立たまがわ高等支援学校
校長名	坂田 定之

開催日時	令和6年5月22日(水) 10:00 ~ 11:30
開催場所	たまがわ高等支援学校 会議室
出席者(委員)	協議会委員6名 会長：土口千恵子(四天王寺大学 教授) 副会長：安藤敦子(府立たまがわ高等支援学校 PTA会長) 【以下五十音順】 岡本弘美(府立たまがわ高等支援学校 たまがわ会理事) 奥村貴寿(ハウスあいファクトリー株式会社 代表取締役社長) 酒井京子(大阪市職業リハビリテーションセンター 所長) 中村一誌(稲葉第一自治会 会長)
出席者(学校)	事務局員10名 坂田定之(校長) 今坂真悟(教頭) 吉岡宗一(事務長) 勝井玲奈(首席) 川島秀文(首席) 有馬成人(地域支援部長) 中島武彦(進路指導主事) 吉村晴海(指導教諭) 藤井隆(学習支援部長) 高橋唯(生活支援部長兼保健主事)
傍聴者	なし
協議資料	〈資料1〉学校運営協議会実施要項 〈資料2〉令和5年度学校経営計画及び学校評価について(報告) 〈資料3〉令和6年度学校経営計画及び学校評価について 〈資料4〉進路指導の状況について(報告) 〈資料5〉生徒指導の状況について(報告) 〈資料6〉令和6年度教科書について
備考	

議題等(次第順)

- 学校運営協議会実施要項
- 令和5年度学校経営計画及び学校評価について(報告)
- 令和6年度学校経営計画及び学校評価について  
進路指導の状況について、生徒指導の状況について、令和6年度教科書について

協議内容・承認事項等(意見の概要)

(1) 学校運営協議会実施要項 〈承認6名〉  
本年度の会長、副会長選出。概略の説明。

(2) 令和5年度学校経営計画及び学校評価について(報告) 〈確認〉  
令和5年度の学校評価については前年度の第3回にて承認済み。

(3) 令和6年度学校経営計画及び学校評価について 〈確認〉

◎学校経営計画より

- ・アドミッションポリシーに関しては、生徒の意見も参考にして見直しを進めている。文言が難しすぎて分からないという生徒の意見もあり、生徒に分かりやすい言葉を選んで検討している。
- ・来年度創立20周年になる。新カリキュラム・新制服のお披露目ができるよう進めている。
- ・「竹でつながる縁」(阪大コラボ)プロジェクトの報告 学校経営推進費事業の二次選考中。大阪大学豊中キャンパスロードの整備に取り組み、社会とつながる連携が構築できるように計画。職業学科の連携、教科横断型学習の展開ができるようにとのねらい。就労先に園芸関係の職場ができるという希望もある。

◎進路指導の状況について

16期生は多くの生徒が早期に就労先を決めることができた。一方、就労するには難しい生徒の入学が増えてきているので福祉事業所の開拓の必要性を感じている。清掃・物流(運搬・ピッキング)を望む生徒が増えている。農林希望の生徒もいるため、大学構内の剪定、農協など生徒の望む職域開拓の必要性を感じている。離職者をなくしたいので、早期にアフターケアをすすめている。

◎生徒指導の状況について

”～しないこと”→”～しましょう”など禁止から自発を促す表現に変更している。指導が必要な事案に関しては人権に配慮して個別最適な指導を心がけている。

意見

- ・ここ20年で障害者雇用の形態が変化している。学校現場も変わってきているなど感じている。福祉の現場でも利用者の声をまずは聞くという本人主体型が変わってきている。
- ・阪大コラボにより園芸での雇用先が広がるというのは、数年前にはなかった流れであり羨ましく思う。このような縁ができるのは感心する。
- ・中学校の先生にもっとたまがわの魅力を伝えてほしい。そして中学校のこともたちに扉を広げてほしい。
- 今日明日、中学校教員向けの公開授業がある。中学生の進路選択の幅が広がっている中で高等支援の魅力が中学生・中学校教員に伝えていく。アドミッションポリシーもホームページ掲載のみならず小さなカードなど配布できるようなものを考えている。
- ・不登校の生徒の進学の話で中学校の先生と話をする「たまがわに行くと大学は行けませんよ」とまず言われる。学校周辺では枚岡樟風高校の一般、布施北高校をすすめられる現状がある。
- ・学校北西のスクランブル交差点は斜め横断の自転車が危ないと感じる。生徒も気を付けたほうがよいのでは。
- ・アドミッションポリシーの変更で生徒の声を受け止めてというのは素晴らしい。この視点切り口は企業でも求められているところ。主役は生徒。小さなカードの配布もぜひ実現を。基本的な社会のルールは学生時代から教えてほしいと切に望むところ。すりこんでほしいぐらい。
- ・阪大コラボをケーススタディにしてほしい。今後、阪大との交渉がでてくると思われるのでサイクルが肝。運送費ゼロは貴重な提案。どのぐらいの頻度で竹が入ってくるのか。横断的な取り組みは生徒の刺激になると思われるので共感する。たまがわブランドを作っていくほしい。
- ・学校の取り組みは保護者としてはじめて知った。感動した。内容に意見することはできないが、保護者として就労できるように学校が尽力してくれることはうれしい。就労に向けて親もサポートしなければとモチベーションあげてこどもに寄り添っているところ。職場で食品を扱っている関係で農家と関連はある。どこかで情報を仕入れたら学校に伝えたい。
- ・すべての面において生徒ファーストで。チームで動くときは担任の力が大きい。生徒の声を担任が吸い上げていく。学校運営協議会の内容を保護者に伝えることで保護者と学校の一体感がうまれると思う。

次回の会議日程

日時	令和6年12月
会場	たまがわ高等支援学校